

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年7月27日(2017.7.27)

【公開番号】特開2016-17038(P2016-17038A)

【公開日】平成28年2月1日(2016.2.1)

【年通号数】公開・登録公報2016-007

【出願番号】特願2014-139180(P2014-139180)

【国際特許分類】

C 0 7 C 247/04 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 247/04

【手続補正書】

【提出日】平成29年6月12日(2017.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

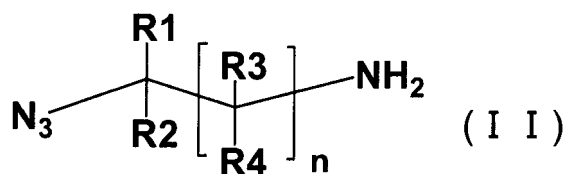
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記一般式 (I I) で表されるアジドアミン誘導体を得る工程、
得られた下記一般式 (I I) で表されるアジドアミン誘導体を、芳香族系溶媒を用いて抽出する工程、
を含むアジドアミン誘導体の製造方法。

【化 1】



式中、R 1～R 4 は各々同一でも異なってもよく、水素原子、アルキル基、アリール基、又はヘテロ環残基を表す。該アルキル基、該アリール基、又は該ヘテロ環残基は更に置換基を有していても良い。n は 1～11 の整数を表す。n が 2 以上である場合、複数の R 3 および R 4 は各々同一でも異なっても良い。

【請求項 2】

前記芳香族系溶媒がトルエンである請求項 1 に記載のアジドアミン誘導体の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

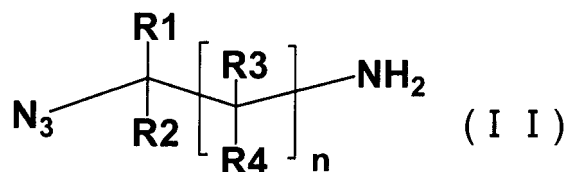
【補正の内容】

【0005】

本発明者らは上記目的を達成すべく鋭意検討した結果、芳香族溶媒またはエーテル系溶媒を後処理時に用いることによって、目的物の経時劣化を抑制し、且つ濃縮時の発熱開始温度もより高温にシフトすることを見出し本発明を完成した。すなわち、本発明は以下によって達成される。

< 1 >

下記一般式 (I I) で表されるアジドアミン誘導体を得る工程、
 得られた下記一般式 (I I) で表されるアジドアミン誘導体を、芳香族系溶媒を用いて抽出する工程、
 を含むアジドアミン誘導体の製造方法。
 【化 4】



式中、R 1 ～ R 4 は各々同一でも異なってもよく、水素原子、アルキル基、アリール基、又はヘテロ環残基を表す。該アルキル基、該アリール基、又は該ヘテロ環残基は更に置換基を有していても良い。n は 1 ～ 11 の整数を表す。n が 2 以上である場合、複数の R 3 および R 4 は各々同一でも異なっても良い。

< 2 >

前記芳香族系溶媒がトルエンである< 1 >に記載のアジドアミン誘導体の製造方法。
 なお、本発明は上記< 1 >及び< 2 >に関するものであるが、以下その他の事項についても参考のため記載した。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

次に本発明を実施例を挙げて具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されない。

目的物の反応追跡および収率は $^1\text{H-NMR}$ （測定溶媒：DMSO）で、また不純物の有無については高速液体クロマトグラフィー（HPLC）を用い、ピーク面積の比率で含量を分析した。

HPLC測定条件は、カラム：ODS-80TS、溶離液：メタノール／水（V/V＝7／3）、緩衝剤：酢酸0.1%、検出器：RI、流量：1.0ml/min、カラム温度：40℃で実施した。

なお、実施例3、6及び7は、それぞれ参考例3、6及び7と読み替えるものとする。